

- . 海外編
- 2. 死や看取りの現状分析

. 海外編

2. 死や看取りの現状分析

海外編
2. 死や看取りの現状分析

No.16	
The Place of Death of Cancer Patients: Can Qualitative Data Add to Known Factors?	
Author(s)	Thomas, Carol
Article	Social Science & Medicine
Vol/No/page	vol. 60, no. 11, pp. 2597-2607
Year	2005
<p>がん患者の死亡場所は、病院、ホスピス、自宅など様々な場所であり、その分布や自宅での死の増加のための施策の立案のための研究が進められてきている。</p> <p>イギリスでは、これまで、このような研究は基本的に、地理疫学的研究か、前向き・後向きコホート研究によって進められおり、またこれらの研究によって「実際の死亡場所」を規定する要因として、癌の種類や性別、サービス施設への距離、ケア者の状態、などの様々な要因が提示されてきた。</p> <p>これに対して、従来の研究による知見に加えて、この研究では定性的なデータが実際の死亡場所を分析するうえで有用な知見を与えることを示している。</p> <p>この研究では、イギリスの緩和ケアサービスの提供者への半構造的インタビューによって得られたデータをもとに、「サービス提供者の施設整備状況」「患者とケアする人の態度」「(処置についての)実践の文化」といった定性的に示された要因が実際の死亡場所を説明するものとなっていることを示している。</p> <p>重要な点は、実際の死亡場所には緩和ケアの専門家の実践が反映されていることを示していることであり、今後の施策の立案などにおいて有益な知見を提供するものと考えられる。</p>	